



# 自衛隊群馬地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCE GUNMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

## C-2 輸送機体験搭乗 群馬県立安中総合学園高等学校

教諭 土屋 亮馬



令和5年8月22日(火)、航空自衛隊の最新輸送機である「C-2」の体験搭乗をする貴重な機会を得た。今回の体験搭乗は自衛隊群馬地方協力本部のご厚意により県内の教育関係者4名が参加した。

「C-2」輸送機は、C-1輸送機の後継機として平成28年(2016年)に開発が完了し、美保基地の第3輸送航空隊第403飛行隊に配備されており、現在は入間基地の第2輸送航空隊第402飛行隊にも配備されている。

「C-2」輸送機はC-1に比べ、近代化された装備と共に、航続距離で4倍、搭載重量で約3倍の性能を誇り、国際平和協力活動の対応など自衛隊の各種任務を、より早くより効果的に遂行することが可能である。

当日の日程は次のとおりであった。

高崎駅 — 入間基地(埼玉県) — 千歳基地(北海道) — 三沢基地(青森県) — 入間基地(埼玉県) — 高崎駅

高崎駅を午前8時に出発し、途中休憩を挟み10時前に航空自衛隊入間基地に到着した。入間基地では受付時に搭乗者一人一人に、ドックタグ(認識票)が配布され身に付けるよう指示があった。業務で搭乗している航空自衛隊員と茨城県の地本からの参加者と共に、「不定期便 212号機」で定刻通り乗り込む。

輸送機であるため旅客機のような座席ではなく、折りたたみ座席であったが、思っていたよりも座席幅は広く、クッション性もあり座り心地は悪くなかった。また、機内もそれほどうるさくはなく、空調も効いていて快適であった。旅客機と同じく離陸前に緊急時の説明・機内の説明がロイドマスターから行われた。離陸時は、旅客機より加速を強く感じ、離陸滑走から離陸するまであっという間という印象を受けた。これは「C-2」の最短離陸距離が500mと旅客機の1/4ということもあるのだろう。入間から千歳の飛行高度は31000ftで、安定飛行に移るとシートベルトサインが消え、機内を見学することもできた。通常の旅客機では考えられないが、コックピットの見学もさせていただくことができ、大変貴重な経験をすることができた。

1時間20分程度で北海道の千歳基地に着陸した。

千歳基地での滞在時間は1時間弱と短かったが、食事と基地内の売店でお土産を購入することができた。

今回、航空自衛隊の最新輸送機である「C-2」に搭乗する機会を与えていただいた。貴重な機会であり、航空祭などの飛行展示や地上展示と違い、まさに業務に従事している隊員の生の姿を見ることができた。このような機会は、自衛隊の役割、業務内容への理解促進の一役を担うであろう。最後に、今回の貴重な機会を提供いただいた自衛隊群馬地方協力本部の皆様に感謝申し上げます。

